



長門の話題

Topics

仙崎観光基地に「海幸仙崎」がオープン この店から仙崎を発信！

12月21日(土)、青海島観光基地のショッピング青海島内に、長門市水産物等直売アンテナショップ「海幸仙崎」がオープンしました。これは、山口県漁協長門統括支店と長門市が事業実施をするものです。藤田昭夫山口県漁協長門統括支店運営委員長の鐘の合図で開店しました。この日は、

ひょうが降る悪天候にもかかわらず多くの来店者があり、無料で振る舞われた浜鍋で体を温めていました。翌22日(日)には、向津具でとれたクロマグロの解体即売会が行われました。この海幸仙崎の営業時間は10時から17時で、水曜日が定休日となっています。



▲開店を宣言する藤田県漁協長門統括支店運営委員長(左)



▼新鮮な魚が直売される店内

大津緑洋高校が花園デビュー 目標達成、次はより上を



▲CTB 末永翔磨選手の先制トライの瞬間

12月28日(土)、東大阪市の近鉄花園ラグビー場で開催された第93回全国高校ラグビー大会に、山口県代表の大津緑洋高校が登場しました。大津緑洋高校は1回戦、北海道代表の遠軽高校と対戦。大津緑洋は、末永翔磨選手が右中間に先制トライを決めるなど前半に2本のトライ

を決め流れをつかみました。後半は一時逆転を許したものの、上野航平選手が逆転のペナルティーゴールを決め18対13で勝利し、目標だった初戦を突破しました。30日(月)に行われた2回戦で大津緑洋高校は、佐賀工業高校と対戦しましたが、3対7で敗れました。

「海友丸」が実習航海に出発 大きくなって帰ってきます

1月10日(金)、遠洋航海の実習船「海友丸」の出航式が県立大津緑洋高校水産校舎の体育館で行われました。遠洋航海実習に参加する生徒は海洋技術科2年生28人や大津緑洋高校水産校舎、福岡水産高校の専攻科1年生16人の合わせて44人です。

出航後はマグロはえ縄漁を体験し2月7日にホノルルに入港。山口県人会との交流や、「えひめ丸」の慰霊碑訪問などが予定されています。青海島観光基地の岸壁から、生徒や保護者などに見送られるながら、49日間の航海実習をスタートさせました。



▲多くの仲間や保護者に見送られて出航



▲イチゴがセリにかかる(長門地方卸売市場)

▼セリでは独特な声が聞かれる(仙崎市場)



安倍首相が正月に墓参り 墓前に国政を報告

1月4日(土)、地元選出議員の安倍晋三首相が墓参りを行いました。安倍首相は1月4日から5日にかけて山口県に入り、油谷にある安倍家の墓参りをしたものです。墓の周辺には地元の人たちを中心に約70人が安倍首相を歓迎しようと待っていました。

首相が到着すると駆け寄って握手をしたり、一緒に写真を撮ったりする人の姿が見られました。今回は首相の夫人昭恵さんと母親の洋子さんとともに墓前に手を合わせました。墓参り後、安倍首相は、記者の取材に応じていました。

▼墓前に手を合わせる安倍首相



長門地方卸売市場と仙崎市場で初セリ 今年も長門の「新鮮」を発信

1月5日(日)、長門地方卸売市場で初セリが行われました。JA長門大津の小田保男組合長は「JAとしては、地産地消、安心安全の観点からこの市場をこれからも支えていきたい」と述べました。その後セリが行われ、イチゴやブロッコリーなど様々な野菜等が次々と競り落とされ

ていきました。また、1月6日(月)未明、仙崎市場でも初セリが行われました。藤田昭夫山口県漁協長門統括支店運営委員長は、「今年はずべてが好転するよう祈っています」と述べました。今年の初セリは例年以上の水揚げがあり、活気あるセリの声が市場に響きました。

長門のPeople

山口読売駅伝 一部昇格を目指し 兄弟エースが 長州路を駆ける

正月の風物詩、箱根駅伝。第90回大会で優勝した東洋大学には、3区と5区を走った双子の設楽兄弟、2区と7区を走った服部兄弟がいます。この2組の兄弟が素晴らしい走りを見せ、総合優勝に大きく貢献。今年の箱根駅伝は、兄弟選手の活躍が際立つ大会となりました。

ここ長門市にも兄弟ランナーがいます。2月9日(日)、萩市から山口市までの8区間66・6キロをたすきでつなぐ「山口読売駅伝2014」に油谷出身の兄・岡野祥大さんと弟・岡野耕大さんが出場します。長門市の代表としても3回目の出場となる2人は、今や長門市のエースとして期待される存在になりました。

岡野耕大 Yasuhiro Okano

1994年2月2日、長門市油谷生まれ。大津高校から信州大学へ入学。現在2年生。兄の影響で高校から陸上競技を始め、大学で陸上部に所属。出雲駅伝や全日本大学駅伝、全日本インカレに出場。179cm、55kg



岡野祥大 Yoshihiro Okano

1991年5月5日、長門市油谷生まれ。大津高校から広島大学へ入学。現在4年生。陸上サークルで競技を続け、昨年の防府読売マラソンで自己記録を18秒上回る2時間24分34秒で10位に入賞。176cm、56kg

正反対なふたり

中学時代から学校の代表として駅伝で活躍した、真面目で大人しい性格の祥大さん。走ることが大嫌いでしたが、兄が持つて帰った区間賞の賞状をうらやましく思い陸上を始めた、明るく活発な性格の耕大さん。

正反対な兄弟ですが、長門市の代表として今、同じ目標に向かって走り続けています。

最後まであきらめない

兄・祥大さんは、大学1年生時に走った初マラソンで2時間46分2秒という好記録をマ

ク。そして、4回目の挑戦となった昨年の防府読売マラソンで自己ベストを更新し、10位入賞。優秀な新人選手に贈られる「貞永賞」を受賞しました。

輝かしい記録も高校時代の挫折があったから。高校2年の時に走った山口読売駅伝で、まさかの繰り上げスタート。悔し涙を流しました。

この経験が駅伝に対する責任感を強め、誰よりもたすきの重さ、あきらめないことの大切さを意識するようになりました。

とにかく楽しむ

弟・耕大さんは、関東の大学

からの誘いもありましたが、無理をして故障してしまつたら元

も子もありません。高校時代のように無理なくマイペースに練習できる今の大学を選びました。その大学で出雲駅伝や全日本大学駅伝に出場し、注目されるようになりました。しかし、

全国の実力差は大きく、その差を埋めるため日々楽しみながら自由気ままに努力しています。

昨年出場した山口読売駅伝では、最長区間である5区を走りましたが、満足のいく走りではありませんでした。

今大会では、「エースとして1部昇格に貢献する走りを見せ

たい」と闘志を燃やしています。

いつまでも走り続ける

卒業後、公務員ランナーとなる祥大さんは、「この競技に出会えたことで今がある。仕事も走っても両立できるよう自分を高めた」と抱負を語りました。

一方耕大さんは、教職を目指しながら競技を続け、「3つある全国大会すべてに出場し、高いレベルの中で上位入賞を目指したい」と意気込んでいます。

8人でつなぐたすきの重みを感じながら岡野兄弟は、エースとしてチームのために長州路を駆け抜けます。